



会報 No.154 令和6年1月号

令和6年 新年挨拶

一般社団法人八王子市私立保育協会 会長 石井 淳

新年明けましておめでとうございます。会員園の皆さま、そして子ども達にとって良い年となりますことを心より祈念申し上げます。

年が始まって早々、元旦に能登半島地震が発生して多くの人命が失われました。ご冥福をお祈りいたします。大きな被害の出た被災地の日も早い復興を願っています。また、2日には羽田で大きな航空機事故がありました。改めて災害や事故が、時と場所を選ばずに起こることを思い知らされました。保育園においても、日頃より安全対策をして備える必要性を再認識しました。

我が国の出生数の推移を見ると、1990年から2000年の10年間は3%の減少、2000年から2010年は約10%の減少、2010年から2020年は約20%の減少と2000年代に入ってから急速に減少しています。このまま2030年代に入ると若者人口が倍速で急減して、少子化は更に加速することが予測されています。国も我が国が直面する最大の危機であると位置づけ、様々な施策に取り組んでいます。保育施設にとっても、これほどの少子化の加速は、園児の減少、働き手の不足など、大きな影響があることは間違いありません。

八王子市では、先日説明会があったように令和6年度から市単独加算の見直しを予定しています。これまで協会も市と4回にわたる打合せを行い、八王子市の保育施設が今置かれている状況や、見直しを行う上で留意して欲しい点などを伝えてきました。今回の見直しは、①施設・行政の事務負担軽減、②制度改正による現状に合わない加算の是正、③国補助金の活用、が主たる目的でした。一方、令和6年度には保育界長年の悲願であった国の保育士配置基準が改正される模様です。そこでこれに合わせて、「子育てしやすいまちナンバーワン」を目指す中核市である八王子市にふさわしい国基準を上回る保育士の増配置加算を強く要望してきました。国の配置基準が固まるまでは、市の増配置加算を確定できない事情があるにせよ、期待にかなう増配置加算となることを信じたいと思います。

今回の市単独加算の見直しには、障害児加算および巡回発達相談事業の見直しも同時に予定されています。八王子市の障害児加算は、他市に比べて補助単価が高く、申請の基準も緩やかでした。そのため障害児を含む配慮を要する子に手厚い対応を行うことが可能となっていました。しかし、一方で園によって加算の対象となる子どもの人数や割合に大きなばらつきが出たり、保育関係の予算を圧迫する事態も生じてきていました。これまでの加算の仕組みは、子どもに紐付いていたため、障害児に特定されなければ補助対象となりませんでした。配慮を要する子がいた場合は、加算を得るために障害児として加算を申請する必要がありました。そうしなければ人件費としての加算が得られなかったという制度的な問題もありましたし、園としてもこうした制度を利用して保育者を確保する必要に迫られた実情があったかと思います。今回の見直しは、これまで子どもに紐付いた加算だったところを、クラスの保育力を上げるために配した職員に紐付ける加算に改めるという抜本

的な見直しとなります。そのため障害児ではない配慮を要する子を障害児に特定することなく職員を配することが出来るようになります。この制度が期待通り稼働すれば、配慮を要する子に対してこれまでのように保護者から同意書を取り、児童状況報告書を提出して、障害児としての認定を受ける必要がなくなり、園児にとっても保護者にとっても園にとっても真の意味でインクルーシブな保育に近づくと確信しています。

協会では、昨年末の役員会で福利厚生部のボウリング大会と民踊流し参加の2つの事業の休止を決めました。これまで担ってきた、会員園の職員の親睦、他園との交流という優れた役割は大いに認めるところです。しかし、コロナ禍を経て再開した今年度は、参加者が大幅に減少しました。また協会の役員を担当する各施設の園長も、これまでとは比べものにならないほど多忙となっており、2つの事業を続けることは過重な業務となり、園務に支障をきたしかねないところまでできています。今は経験豊富な役員が担当し、何とかやりくりをしていますが、今後限られた人数で協会を運営していく上で、決して持続可能な事業とは言えなくなってきました。そこで、一旦事業を休止して、今後保育の情勢が改善し、園長の業務にゆとりが出て、さらに事業再開の気運が高まったときに再開を検討していただきたいと思えます。

今年、国の保育士配置基準の改正、市の単独加算の再構築など、様々な制度改革のある年となりますが、引き続き八王子市の子どもたちのために八王子市の行政および議会からご支援を頂きながら、八王子市私立保育協会の活動を行っていきたく存じます。変わらぬご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



園長研修委員会 施設見学会

(カミヤト凸凹保育園+plus・春日台センターセンター)

さつき保育園 事務長 齋藤雄大

12月18日、園長研修委員会主催の施設見学が数年振りに実施されました。師走の忙しい時期にも関わらず参加して下さった32名の先生方のためにも、過ごしやすい暖冬を期待していましたが…。当日の朝は、冷たい季節風が吹き込む真冬並の寒さで、皆、肩をすぼめて八王子駅南口に集合することになりました。

今回の研修テーマは、「地域に開かれた保育園の在り方」。我々保育所が、地域資源として更に存在価値を高めていくには…。そんな可能性のヒントを見付けに向かった先は、神奈川県厚木市上依知、社会福祉法人愛川舜寿会が運営する開園5年目の「カミヤト凸凹保育園」です。「誰もが持つ『凸』に注目し、誰もが持つ『凹』をみんなで埋め合う」というコンセプトのもと、互いを認め合い、支え合い、頼り合い、響き合う保育を実践している園です。

平屋建ての園に到着すると、回廊型の園舎中央に位置する遊戯室に通されます。園長の瀬山さと子先生と簡単な打ち合わせがあったのですが、大きなガラス扉から見える光景に目を奪われ、話に集中出来ません。何故なら、この寒空の下、芝庭で遊んでいる子のほとんどが裸足で、上半身裸で転げ回っている子までいたのですから。「これは楽しそうだ」と、早速靴下を脱いで遊びの輪に近付いてみると、すぐに落ち葉シャワーの洗礼で出迎えてくれた子ども達。見知らぬ私を相手に、自分の名前をクイズにして教えてくれたり、手を繋いでお気に入りの場所に連れて行ってくれたり。その他人を許容する早さと仲間に引き込む巧みさに、思わず感心してしまいました。

併設している通所施設の子も園に自由に出入りし、またクラス間の行き来も自由で、自分のペースで遊びを紡いでいく姿がそこかしこで見られます。昼食

は時間もバラバラ、場所もそれぞれ。好きな時間に好きな場所で好きな相手と食べています。時には年下の子の食事介助や寝かし付けまでするそうで、そうしたインクルーシブな日々の積み重ねが、我々のような来訪者を迎えた際の懐の深さに表れているように感じました。

これだけ子ども達に自由を与えて、どのようにして安全を確保しているのか。どうやって子どもの姿を把握し、日誌を書いているのか。果たして休憩は取れているのか。そんな要らぬ心配の答えは、「互いに助け合う」というシンプルなものでした。誰かが見る。誰かに聞く。誰かと交代する。当たり前であって実は難しいこの助け合いを、自然と行う大人達は、そこで生活する子ども達にとって理想的な環境と言えます。

一方、園から車で10分程離れた場所にある「春日台センターセンター」。長らく地元で愛されたスーパーが閉店した後、町として何が必要かを考え、話し合った結果、一昨年の3月にオープンした地域共生文化拠点です。小規模多機能居宅介護や認知症グループホーム、放課後等デイサービスといった事業をはじめ、洗濯代行サービス、コロケスタンド、寺子屋に至るまで、あらゆる方向から地域と福祉を近付けていこうとする施設には、多種多様な人が集まってきます。建物全体がガラス張りなので、そこで生活している高齢者や働いている障害者、通りを歩く人々、駄菓子を買いに來る子ども達や充電目当てに屯する中高生、パーティーを開く外国人の全て

が、互いに目視出来ます。それぞれ違う人生を歩む他人の生活が、自分の生活の中の風景となっている印象です。何処からでも見えるから、何処にでも出ていける。そんな場所なのに、ルールを知らせる注意書きはどこにも無く、園と同様に監視カメラもありません。その代わりに人が声を掛ける。ここにも「人が対応する」という大原則が通底していました。

園では、子ども達の自主性と大人達の自主性が共存する空間が担保されており、センターでは、互いに認め合う生活の場が確保されていました。法人が基本理念に掲げている「自律」と「共生」が展開されている様を眺めていて、ふと、「ガラス張りである意味は何だろう？」と考えていました。園でもセンターでも、基本的にガラス張りが採用されており、外から内、内から外が丸見えです。ここで、もう一つの理念である「寛容」という言葉が浮かんできました。「ガラスの内の人間も、ガラスの外の間人も、互いを許し受け入れようとしているからこそ、ガラス張りが成り立つのかも知れない」等とぼんやり考えながら、バスに揺られて八王子に帰ってきました。

社会「を」やさしくしようとする法人に集まった職員さんや子ども達、利用者さん達に触れ、また少し優しくなれるような気がした今回の施設見学。今回の学びからそれぞれの先生方が何を感じ、何を掴んだのか。子ども達のこと、先生達のこと、地域のことを、より一層考え、深めていくキッカケになれば幸いです。





4年ぶりの開催！ ボウリング大会

団体優勝
めぐみ第一保育園



◆めぐみ第一保育園 団体優勝コメント◆

今回ボウリング大会に初めて参加させて頂きました。ボウリング自体久しぶりだったというのと、めぐみ第一保育園は優勝候補であるということの風で聞いてプレッシャーを感じていましたが、団体では優勝することができて嬉しかったです。ほぼ、僕以外の先生方のお力ですが…。大会は想像していた以上に盛り上がっていて、大会後のじゃんけん大会も、大変楽しませて頂きました。大会後には園長先生にお食事に連れて行って頂き、美味しいご飯とお酒をご馳走になりました。次回大会もぜひ参加させて頂きたいと思います。関係者の皆様、お忙しい中、素敵な大会を開いて頂きありがとうございます。 永坂 京介

◆
コロナ禍もあり4年ぶりに開かれた今大会でしたが、職員の皆と一緒に参加してとても楽しい時間を過ごす事が出来ました。私自身、球技全般が苦手なのですが同じチームの職員のアドバイスのおかげで尻上がりに調子が良くなり2ゲーム目ではハイスコアを出すことができました。ゲーム終了後の表彰式で個人で10位、チームでは優勝と予想以上の結果に大変驚くと共にとても嬉しかったです。

表彰式内では全参加者で会長賞を争奪のじゃんけん大会もあり、大いに盛り上がりました。終了後には参加した職員と共に夕食を食べに行き、祝勝会を開き、そこでも楽しい時間を過ごす事が出来ました。今回、お忙しい中開催の準備をして頂いた福利厚生部の皆様有り難うございました。 牛尾 一美

今回久しぶりに開催された大会に、楽しく参加させて頂きました。日々保育という仕事に追われている他のメンバーと、こうした場を借りて親睦を深められた事にとっても感謝しています。幸運にも団体と個人を合わせて優勝できましたが、何よりも参加された皆がジェスチャーを織り交ぜた大歓声を上げながら、とても盛り上がって楽しんでいたのが良かったです。

◆
今後も機会がある限り参加を楽しみたいと思います。

大会の関係者の皆様には、お忙しい中開催して頂きまして大変感謝しています。来年以降も大会が行われて、参加者が一人でも多く楽しい時間を過ごせる事を心から願っています。本当に有り難うございました。 牛尾 孝

◆
4年ぶりのボウリング大会の開催おめでとうございます。私自身3度目の参加で、個人で準優勝、団体ではチームの皆と協力して念願の優勝をすることが出来ました。

普段同じ園内に居ながら親睦を深めることが難しいのですが、イベントのおかげでお互いを知り有意義な時間を過ごす事が出来ました。大会終了後はチームの皆と共に食事に行き美味しい御飯を頂き大満足な一日となりました。

来年もイベントが開催されることを楽しみに年間頑張ります。主催者・関係者の皆様お忙しい中開催して頂き本当に有難うございました。

牛尾 健太

シリーズ 私の保育園

敬愛ハーモニー保育園

園長 栢原 武彦

敬愛ハーモニー保育園は、社会福祉法人敬愛学園の9番目の保育園として、平成24年4月に開園しました。おかげさまで開園12年目となり、現在は0歳児から5歳児までの81名の園児が在籍し、毎日楽しく過ごしています。

近くには甲州街道が通り、園からは行きかう車を見ることができます。バスやトラックなど「はたらくくるま」が大好きな子どもたちにはうれしい環境ですが、園舎が道一本奥の住宅地にあるため、音は全く気にならず、むしろいつも静かで落ち着いた雰囲気になっています。秋には、黄色く色づいたいちちょう並木を楽しむこともできます。また、甲州街道の下には八高線の線路がくぐり、4両編成の電車がのどかに通り過ぎます。

園舎は3階建て。1階には0歳児エンゼル組と1歳児ハッピー組、2階には2歳児ドリーム組・3歳児ホープ組・4歳児レインボー組の保育室があります。3階には、大きなガラスの引き戸越しに調理の様子がよく見えるッキングルーム（調理室）とランチルーム、そして5歳児コスモス組保育室があります。どのフロアも、裸足でも心地よい明るい色調



園舎

のフローリングを施し、ぬくもりが感じられるオリジナルの木製家具が、そこで過ごす子どもたちを優しく受けとめています。

園舎の南側には100㎡ほどの園庭があります。その中央には大きなくすのき、それを囲むように、姫りんご・いちじく・さくらんぼ・びわ・柿・かりん・オリーブなどが植えられ、まるで果樹園のよう…。柿の木は決して大きくはないのですが、毎年100個以上、多い年は180個ほどの実が採れました。

かりんもたくさん採れ、「かりんジュース」を作って楽しんでます。今年は、各クラスで氷砂糖のほか、黒糖・三温糖・はちみつなどを使って作り、飲み比べをしました。子どもたちも職員も、「はちみつがおいしかった。」「やっぱり氷砂糖がいいね！」などと盛り上がっていました。また、びわの木は、もともと開園の年のおやつで提供されたびわを園長が食べ、その種をプランターで育てたものです。開園12年目で3メートルほどに大きく成長し、おいしい実をつけるようになりました。自分が食べたびわの小さな種から育った実を、十数年の時を経て子どもたちが食べている姿を見ると、感慨深いものがあります。

そして、開園以来、地域社会とのかかわりも少し



田んぼ

ずつ広げていきました。近隣の自治会や高齢者の会の方との園内外での交流、グランドゴルフ大会など休日に開催されるイベントへの職員の参加、市の職員の方の協力を得ながら進めてきた稲作農家との連携、職員の出身校とのつながりで実現した音楽会など、今では多彩な地域連携活動を年間通して楽しみ、地域に根付いた保育園となりました…。

園長としての喜びはたくさんありますが、1日の中で特にうれしいひととき…それは、お迎えの時間帯です。

お迎えの保護者の方、おじいちゃん、おばあちゃんと子どもたちが出会う瞬間の満面の笑顔…。それ

を見守る保育者も思わず笑顔になります。そして、お迎えの方どうしてお話しが弾んでいる様子を見ていても、この上ない喜びを感じます。保育園という場を通して地域の方どうしが出会い、少しずつ親しくなり、連絡を取り合うほどの友だちになる方たちも少なくなく、保育園としての大きな役割のひとつを果たせているように思います。

これからも、子どもたち、家族の方、地域の方の笑顔のため、何よりも職員どうしが仲よく、思いを率直に伝え合える環境を大切にしていきたいと思えます。



敬愛ハーモニーなべっこパーティー

編集後記

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。新年早々令和6年能登半島地震、羽田空港では航空機事故と災害が続きました。平安のお祈りを捧げます。

お正月の3ヶ日、お寺では御祈禱をしました。大般若波羅蜜多經600巻を抜粋し転読します。お経の本をパラパラとアコーディオンのようにめくるのです。そのお経の1冊読み終える言葉の中に「降伏一切大魔最勝成就」すべての悪魔よ去れもっとも良いことだけ起これ！と大きな声でご祈禱します。因みに三蔵法師が天竺に行ったお経です。今年辰年ということで、辰年うまれの方々、辰年の辰は干支での漢字となり、一般では龍という字になります。登り龍のごとき飛躍を期待いたします。保育業界も良い方向に向かっていくことを期待します。

八王子ひまわり保育園 野上ひろし